

の元榮は太字を略したものであらうし、北史の元太宋はまさに元太榮の誤であらねばならぬ。

然るに更に考を要することは、同じ中村氏所藏の敦煌出土觀世音經の奥書の中に、次の文字の見ゆることである。

(上略) ……清信士佛弟子尹波、寔由宿福不勲、觸多屯難、扈從主人、東陽王殿下、屆臨瓜土、矚遭離亂、災妖橫發、長蛇競熾、萬里含毒、致使信表牢隔、以逕年記^(紀)、尋幽寄矜、唯憑聖趣、輒興微顯、寫觀世音經卅卷、施諸寺讀誦……願東陽王殿下體質康休、洞略雲表、年壽無窮、永齊竹柏、保境安蕃、更無虞寇、皇途尋開、早還京國、敷暢神譏^(機)、位昇宰輔……

大魏孝昌三年歲次丁未四月癸巳朔八日庚子佛弟子假冠軍將軍樂城縣開國伯尹波敬寫

孝昌三年 (527 A. D.) 丁未の歲は魏の肅宗孝明帝の時代であつて、前記瓜州刺史元太榮の東陽王に封ぜられた永安二年に先立つこと二年である。而して此の跋に據ると、孝昌三年に既に東陽王と稱する人が瓜州に在り、この經の寫手尹波も扈從して此の地に在つたものである。魏書について永安二年以前に東陽王に封ぜられた人を求めて見ると、自分の檢出し得た所では、高祖孝文帝の承明元年宗室の丕を封じて東陽王としたことが高祖本紀に見え、また丕の傳にも載せてある。丕は高祖に重用せられ、位公輔を極めた人であるが、瓜州に在つたことはなく、無論また其の刺史に任ぜられたこともない。太和十八年 (494 A. D.) 高祖が洛陽に遷都しようとした時に、丕の子隆・超等は之を喜ばないで叛逆を企てたのに連座して庶民に下され、隆・超等は誅戮せられた。これ以外には永安二年に至るまで、東陽王に封ぜられたものはない。然も東陽王と稱する人が孝昌三年に瓜州に在つたことは此の跋に依